

令和8年度

文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

音楽

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
1年	○意欲的に音楽活動に取り組み、楽しんでいる児童が多い。一方で鍵盤ハーモニカでは、正しい指使いで演奏したり、思う通りに指を動かしたりすることが難しい児童が見られる。	○常時活動として指番号を扱う遊びを取り入れ、正しい指使いで演奏できるようにする。 ○鍵盤ハーモニカを演奏する前に、指を動かす活動を取り入れ、指の独立を促す。	
2年	○意欲的に音楽活動に取り組み、学んだことを生かしながら活動を楽しむ児童が多い。一方で、鍵盤ハーモニカでは、指くぐりのある部分や音が跳躍する部分の演奏において、技能面で個人差が見られる。また、音符や休符の違いを正しく理解できていない児童が見られる。	○鍵盤ハーモニカでは、指の動きが複雑になる部分に活用できる練習を、遊びとして継続的に取り入れる。 ○音符や休符を正しく理解できるよう、全体での確認だけでなく、ワークシート等も活用しながら、丁寧に確認する。	
3年	○リコーダーの学習では、技能面は少しずつ上達しているが、練習への取り組み方から習熟度に差が生じている。 ○意欲があり、楽しみながら音楽活動をする児童が多い。しかし、気持ちが高ぶり、必要以上に身体が動いてしまったり、大きい声で歌ったりする様子が見られる。	○机間指導を徹底し、演奏困難な児童に個別で指導を行う。技術の向上をスモールステップで高めつつ、ペアで活動を行ったり個に応じた指導を行ったりすることで無理なく参加できるようにする。 ○活動内容にメリハリをもたせ、身体を動かす活動と静かに取り組む活動を効果的に取り入れることで、児童が気持ちを切り替えながら学習に集中できる授業づくりを行う。	
4年	○意欲があり、自らすすんで音楽活動する児童が多い。一方で、音楽を形づくっている要素について知覚・感受したことを言葉にすることが難しい児童がいる。	○身体を動かす活動を多く取り入れ、身体全体で音楽を体感させることで知覚することへの支援を行う。また、音楽の感じを表す言葉について日頃から用語の例を提示し、それらを利用して感受したことを言葉で表現できるように支援をする。	
5年	○意欲があり、積極的に表現したい音楽を自分の意見としてもつことができる児童が多い。一方で、実際に音楽表現をするにあたり、歌唱の技能	○歌唱に取り組む前に、その曲のよさを考える活動を取り入れ、児童に思いや意図をもたせる。また、できていることをほめながら歌唱に取り組ませることで、課題に対して達成できている点を着実に積み重ねられる	

	面に課題が見られる児童がいる。	ように指導を行う。	
6 年	○意欲が高く、すすんで音楽活動に取り組むことができる。一方で、教師の指示に沿って活動することはできるが、よりよい表現を創意工夫することに課題がある。	○音楽づくりで多様な音楽表現の着想を得られるようにし、それらを歌唱や器楽の表現活動に生かせるように支援する。また、演奏を録画・録音をして振り返る活動を取り入れ、自らの表現を客観的に捉え、より豊かな音楽表現をするために工夫を考える力を育成する。	